

科目 論理国語

授業時数 2 単位

履修学年 2 学年

目標 さまざまなテーマの評論文を読むことを通して、論理的、批判的な思考力と判断力、表現力を身につける。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|---|--|--|
| 使える 活用Ⅱ | 学校生活や身近な社会生活における様々な関わりを含みながらも社会人として活躍していく高校生が、現実の社会に必要な国語の知識や技能を他者との関わりにおいて適切に使うことができる。 | 論理的に考える力に加えて批判的に考える力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |
| できる 活用Ⅰ | 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 | 論理的、批判的に考える力を身に付けることで自分自身の思考を意識的に吟味する力をつける。 | 言葉の価値を認識し、読書を通して現代社会に関わる問題に幅広く関心を持ち、言葉を通して他者や社会と関わろうとする。 |
| わかる 習得 | 他者と関わる現実の社会において必要な国語の知識や技能について理解している。 | 文章や資料における情報に対し論理的、批判的に考える力が重視されることを理解する。 | 言葉の価値を認識し読書に親しみ自己を向上させることで、ものの見方や考え方が豊かになることを理解する。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | 〔信念をもつ人〕 〔振り返りができる人〕 | 〔コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人〕 〔思いやりのある人〕 | 〔探究する人〕 〔広い視野を持つことができる人〕 |
| 評価方法 | 定期考査 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出) | 定期考査 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出) | 出席状況 授業態度(教材準備、発問評価、積極性) |

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書『論理国語』第一学習社
- ・『新国語総合ガイド』京都書房
- ・『論理国語 学習課題集』第一学習社

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・「理解編」では、文章の構成や展開の仕方を論理的に分析する活動を取り入れたりと、内容を批判的に検討し個人の考えを表現できるようなグループワークやレポート作成をする。
- ・「表現編」では、レポートと小論文の書き方を基礎から学び、授業内で書く活動を多く取り入れる。理解編とも関連づけ、導入やまとめで主に、途中の間でも適宜プリント等活用して書く活動を設ける。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----------|-----|----|---|
| 前期 中間 | 4月 | 17 | 「自他の『間合い』」(鷺田清一) 「『私』中心の日本語」(森田良行) 「手の変幻」(清岡卓行) 「AI時代の社会と法」(小塚荘一郎) |
| | 5月 | | |
| | 6月 | | |
| 前期 期末 | 7月 | 18 | 「なぜ多様性が必要か」(福岡伸一) 「コミュニティ空間としての都市」(広井良典) 「人間という中心と、それよりも(軽い命)」(金森修) 「言語が見せる世界」(矢野茂樹) |
| | 8月 | | |
| | 9月 | | |
| 後期 中間 | 10月 | 18 | 「身体の個別性」(浜田寿美男) 「いのちのかたち」(西谷修) 「リスク社会とは何か」(大澤真幸) |
| | 11月 | | |
| | 12月 | | |
| 後期 期末 | 12月 | 17 | 「コスモポリタニズムの可能性」(河野哲也) 「『である』ことと『する』こと」(丸山真男) 「現代日本の開化」(夏目漱石) |
| | 1月 | | |
| | 2月 | | |

科目 古典探究

授業時数 2 単位
履修学年 2 学年

目標 時代を超えた「知」として蓄積されてきた古典を通し、国際化や情報化の急速な進展を伴う社会でよりよく生きるため、教養としての古典の価値を再認識し、自己の在り方生き方を見つめ直す契機とする。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|---|--|--|
| 使える 活用Ⅱ | 生涯にわたり他者や社会と関わっていく社会生活全般において必要な知識や技能について理解し、それを適切に使うことができる。 | 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |
| できる 活用Ⅰ | 伝統的な言語文化に対する理解を深め、生涯にわたる社会生活において必要な知識や技能について理解できる。 | 古典に表れている、人間、社会、自然などに対する、ものの見方、感じ方、考え方の現代との類似点、相違点を理解する。 | 古典の中心とした文化としての言語、実際の生活で使用する中で形成されてきた文化的な言語生活、言語芸術や芸能などの価値を理解し尊重する。 |
| わかる 習得 | 日常関わる社会に限らず、現実の社会そのものにおいて必要な国語の知識や技能があるということを知覚する。 | 古典の学習を通して古典の豊かな世界に触れ、先人が何を感じて何を考えたのか、いかに生きたのかということを知る。 | 生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させること、古典を通して社会人として考え方やものの見方を豊かにすることへの意識ができる。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [探究する人] [知識のある人] | [思考できる人] [振り返りができる人] | [挑戦する人] [広い視野を持つことができる人] |
| 評価方法 | 定期考査 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出) | 定期考査 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出) | 出席状況 授業態度(教材準備、発問評価、積極性) |

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書『標準古典探究』第一学習社
- ・『古典探究 学習課題集』第一学習社
- ・『体系古典文法学習ノート』数研出版
- ・『体系漢文学習ノート』数研出版
- ・『体系古典文法』数研出版
- ・『体系漢文』数研出版
- ・『理解を深める核心古文単語』尚文出版

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・「古文編」「漢文編」それぞれの主要なジャンルの代表作を読む中で、当時の資料を見たり、自身の理解が深まっているか振り返る時間を設けたりするなど、古典に表れたものの見方や考え方を理解するよう順序立てた授業展開にする。
- ・教材を通し、自分の考えを広げたり、想像力を豊かにするような発問を用意し、書く活動を継続的に取り入れる。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----------|-----|----|--|
| 前期 中間 | 4月 | 17 | 〈古文〉随筆「よろづのことは頼むべからず」(徒然草) 〈古文〉物語「火鼠の皮衣」(竹取物語) 〈漢文〉「赤壁之戦」(十八史略) 〈古文〉説話「のちの千金の事」(宇治拾遺物語) |
| | 5月 | | |
| | 6月 | | |
| 前期 期末 | 7月 | 18 | 〈漢文〉故事・寓話「朝三暮四」(列子) 〈古文〉物語「通ひ路の関守」(伊勢物語) 〈古文〉説話「児の知恵」(沙石集) 〈漢文〉中国の詩「峨眉山月歌」(李白) |
| | 8月 | | |
| | 9月 | | |
| 後期 中間 | 10月 | 18 | 〈古文〉説話「浦島太郎」(御伽草子) 〈古文〉日記「門出」(更級日記) 〈漢文〉思想「仁人心也」(孟子) |
| | 11月 | | |
| 後期 期末 | 12月 | 17 | 〈漢文〉項羽と劉邦「鴻門の会」(史記) 〈古文〉物語「光る君誕生」(源氏物語) 〈漢文〉思想「法者王之本也」(韓非子) 〈古文〉評論「兼好法師が詞のあげつらひ」(玉勝間) |
| | 1月 | | |
| | 2月 | | |

| | | | |
|-----|---|------|------|
| 科 目 | 文学探究 | 授業時数 | 2 単位 |
| | | 履修学年 | 2 学年 |
| 目 標 | 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 | | |

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|---|--|--|
| 使える 活用Ⅱ | 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を現代文学や古典文学を通して身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めたりできる。 | 現代の文学作品や古典作品を通して深く共感したり想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。 | 現代文学や古典文学を通して言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、日ごろから読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会と関わることができる。 |
| できる 活用Ⅰ | 日常関わる社会に限らず、現実の社会そのものにおいて必要な国語の知識や技能を理解する。 | 文学的な文章を読むことを通して、言葉の適切さや美しさなどを判断する感覚を洗練し、自らの言葉に対する完成を磨く。 | 文学作品を通して自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりできる。 |
| わかる 習得 | 我が国の言語文化に対する理解の重要性を認識する。 | 文学作品を通し、多様な相手との相互理解を進めていく必要性について理解する。 | 文学作品からさまざまなことを感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで心を豊かにするという言葉の価値を認識する。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [探究する人] [知識のある人] | [思考できる人] [振り返りができる人] | [挑戦する人] [広い視野を持つことができる人] |
| 評価方法 | 定期考査 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出) | 定期考査 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出) | 出席状況 授業態度(教材準備、発問評価、積極性) |

■何で学ぶか [教材]

| |
|----------------------|
| 中島国彦監修『近現代文学名作選』明治書院 |
|----------------------|

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

| |
|--|
| 文学作品についてはこれまでの現代文(小説・詩歌)に相当する授業を行う。古典作品については、文法事項も重視しながら、古文、漢文の作品の読解を行う。 |
|--|

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----------|-----|----|---|
| 前期 中間 | 4月 | 17 | 谷崎潤一郎「刺青」 芥川龍之介「鼻」 有島武郎「小さき者へ」 宮沢賢治「よだかの星」 横光利一「蠅」 |
| | 5月 | | |
| | 6月 | | |
| 前期 期末 | 7月 | 18 | 井伏鱒二「山椒魚」 梶井基次郎「檸檬」 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」 太宰治「黄金風景」 中島敦「山月記」 |
| | 8月 | | |
| | 9月 | | |
| 後期 中間 | 10月 | 18 | 川端康成「小切」 安部公房「赤い繭」 幸田文「おきみやげ」 山川方夫「朝のヨット」 筒井康隆「駱駝」 森鷗外「舞姫」 |
| | 11月 | | |
| | 12月 | | |
| 後期 期末 | 12月 | 17 | 宮本輝「途中下車」 村上春樹「沈黙」 川上弘美「神様」 夏目漱石「こころ」 小川洋子「口笛の上手な白雪姫」 |
| | 1月 | | |
| | 2月 | | |

| | | | |
|-----|--|------|------|
| 科 目 | 地理総合 | 授業時数 | 2 単位 |
| | | 履修学年 | 2 学年 |
| 目 標 | 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 | | |

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
|---------------|----------------|---|--|---|
| 評価規準「育ちのプロセス」 | 使える 活用Ⅱ | 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 | 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互関係、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて考察・構想したりする力があり、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論することができる。 | 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度が養われているとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、我が国や世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚を持っている。 |
| | できる 活用Ⅰ | 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、諸資料から地理に関する様々な情報を調べまとめることができる。 | 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互関係、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力があり、考察・構想したことを説明することができる。 | 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度が養われているとともに、我が国や世界の諸地域の多様な生活文化について多面的・多角的な考察や深い理解ができています。 |
| | わかる 習得 | 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて様々な情報を調べることができる。 | 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互関係、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力がある。 | 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度が養われている。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [知識のある人] | [思考できる人] [広い視野を持つことができる人] | [探究する人] [バランスのとれた人] | |
| 評価方法 | 定期考査 課題レポート | 定期考査 課題レポート | 定期考査 課題レポート 授業に取り組む姿勢や意欲 | |

■何で学ぶか [教材]

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・教科書「地理総合」二宮書店 ・地図「詳解現代地図 最新版」二宮書店 ・「新地理の研究」啓隆社 |
|---|

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

| |
|---|
| <p>「地理総合」は、中学校社会科の学習の成果の上に立って、高等学校生徒の発達段階を考慮して設置された科目であり、特に中学校社会科地理的分野との関係が深い。このことから、既習内容を踏まえた適切な対応が必要である。また、地理的分野とともに、同じく社会的事象を学習の対象とする歴史的分野及び公民的分野についても、ここでの学習を前提として「地理総合」の内容は構成されており、必要に応じてそれらの内容を振り返り、関連を図りながら、指導内容の工夫を図る必要がある。</p> |
|---|

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----------|-----|----|---|
| 前期 中間 | 4月 | 16 | 【第1章】地図とGISの活用 1, 球面上の世界 2, 世界からみた日本の位置と領域 3, 国内や国家間の結びつき 4, 暮らしのなかの地図とGIS |
| | 5月 | | |
| | 6月 | | |
| 前期 期末 | 7月 | 16 | 【第2章】地理的環境の特色 1, 地形と生活文化 2, 気候と生活文化 3, 産業と生活文化 4, 宗教・言語と生活文化 |
| | 8月 | | |
| | 9月 | | |
| 後期 中間 | 10月 | 16 | 【第3章】世界各地の生活文化 1, 経済発展と生活文化の変化～東アジア～ 2, 宗教の多様性と生活文化～ASEAN諸国～ 3, 水の恵みと生活文化～南アジア～ 4, イスラーム社会の多様性と生活文化～イスラーム圏～ |
| | 11月 | | |
| | 12月 | | |
| 後期 期末 | 12月 | 22 | 5, 多様な気候と生活文化～アフリカ～ 6, 経済統合による生活文化の変化～EUと周辺諸国～ 7, 寒冷な気候と生活文化～ロシア～ 8, グローバル化による生活文化の変化～アメリカ・カナダ～ 9, 土地の開発による生活文化の形成～ラテンアメリカ～ 10, 植民と移民による生活文化の形成～オセアニア～ |
| | 1月 | | |

| | | | |
|-----|---|------|------|
| 科 目 | 日本史探究 | 授業時数 | 3 単位 |
| | | 履修学年 | 2 学年 |
| 目 標 | 日本の歴史の展開を諸資料に基づき歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 | | |

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|--|--|---|
| 使える 活用Ⅱ | 諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に着けるようにする。 | 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目する。 | 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探求しようとする態度を養う。 |
| できる 活用Ⅰ | 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解できる。 | 様々な史実から、それを総合化し、推論して史像を形成できるような能力を養う。形成された史像や概念などを活用して多面的・多角的に考察し、考えたことを表現できる力を育成する。 | 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚的な態度を養う。 |
| わかる 習得 | 諸事象の本質をその歴史的な形成展開の過程の実証的な考察によってとらえる歴史的な見方や考え方を身に付け、歴史的な思考力の育成を図り、国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養う。 | 歴史にみられる課題を把握し、解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする能力を養う。 | 我が国の歴史や祖先に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚や意識などを深める。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [広い視野を持つことができる人] [知識のある人] | [思考できる人] [バランスのとれた人] | [探究する人] [振り返りができる人] |
| 評価方法 | 定期考査 課題レポート | 定期考査 課題レポート | 定期考査 課題レポート 授業に取り組む姿勢や意欲 |

■何で学ぶか [教材]

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・教科書「詳説日本史」山川出版社 「詳説日本史スタンダードテスト」 山川出版社 ・「詳説日本史授業用ノート」山川出版社 ・「詳説日本史図録」山川出版社 |
|--|

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

| |
|---|
| <p>原始・古代から現代までの通史を学ぶための授業を行う。最初に思考力・判断力・表現力を働かせるための基礎知識を獲得させ、歴史的なできごとの背景や因果関係が理解できるようにする。そのために教科書や図録に掲載されている史資料を精選した形で提示し、時代の特色をつかむ学習上の視点となる問いかけを重視する。その際、歴史叙述の基礎となる文字史料のほか、遺物や遺跡などの重要性を生徒に自覚させたい。授業の終わりでは「まとめ」の問いを設けて学習内容を振り返り、考察できるようにする。また、教科書の本文を読む際の着眼点なるように、加えて様々な角度から歴史を捉えられるよう教科書の随所に設けられている問を積極的に活用する。主体的に取り組む態度を評価するために自由研究を前提とした課題レポートを課す。その際に研究内容だけでなく課題テーマを選択した理由、研究の結果わかったこと(振り返り)なども重要な評価の観点とする。</p> |
|---|

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----|-----|----|---|
| 前期 | 4月 | 27 | 1 原始・古代の日本と東アジア 本文化のあけぼの 島最古の文化 の社会と文化 社会と文化 立と古墳文化 国 の成立 進展 ③律令国家の形成 代国家の形成 文化、白鳳文化 |
| | 5月 | | |
| | 6月 | | |
| 前期 | 7月 | 27 | ・律令制度 ・奈良時代の政治 平文化 の国家・社会の変容 制再編期の政治と社会 成立と支配体制の転換 2 中世の日本と世界 園公領制の成立と院政 家・社会の展開 成立と朝廷 人々 |
| | 8月 | | |
| | 9月 | | |
| 後期 | 10月 | 26 | ・蒙古襲来と幕府の衰退 倉文化 の国家・社会の変容 動乱 治と外交 開と応仁の乱 ・戦国大名の分国経営 |
| | 11月 | | |
| | 12月 | | |
| 後期 | 12月 | 25 | 3 近世の日本と世界 ①東アジアの世界の変容と天下統一 豊政権 一の完成 期の文化 成立と展開 ・貿易の統制と対外関係 世社会のしくみ |
| | 1月 | | |
| | 2月 | | |

| | | | |
|-----|---|------|------|
| 科 目 | 世界史探究 | 授業時数 | 3 単位 |
| | | 履修学年 | 2 学年 |
| 目 標 | 社会的事象の歴史的な見方や考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 | | |

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|---|---|---|
| 使える 活用Ⅱ | 諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適正かつ効果的に調べまとめる技術を身につけられるようにする。 | 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目する。 | 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養う。 |
| できる 活用Ⅰ | 世界の歴史の大枠と展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら総合的にとらえて理解することができる。 | 世界の歴史の大枠と展開に関わる史実から、それらを総合化し、推論して史像を形成できるような能力を養う。また、それらを活用して多面的、多角的に考察し、考えたことを表現できる力を育成する。 | 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民として自覚的な態度を養う。 |
| わかる 習得 | 諸事象の本質をその歴史的な形成展開の過程を実証的な考察によって捉える歴史的な見方や考え方を身につけ、歴史的な思考力の育成を図り、国家・社会を形成する資質と能力を養う。 | 歴史にみられる課題を把握し、解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする能力を養う。 | 我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [広い視野をもつことができる人] [知識のある人] | [思考できる人] [バランスのとれた人] | [探究する人] [振り返りができる人] |
| 評価方法 | 定期考査 課題レポート | 定期考査 課題レポート | 定期考査 課題レポート 学習に取り組む姿勢や意欲 |

■何で学ぶか [教材]

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・教科書「詳説世界史」 山川出版社 ・「アカデミア世界史」 浜島書店 ・「新世界史研究ノート応用編」 啓隆社 ・「新よくでる一問一答世界史」 山川出版社 |
|---|

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

| |
|---|
| <p>古代から現代までの通史を学ぶための授業を行う。思考力、判断力、表現力を養う前に知識を獲得させ、歴史的な事象の世界の諸地域がどう形成され、変化してきたのか、現代との繋がりという大きな問を掲げながら、諸地域や時代を具体的に展開し背景や因果関係が理解できるようにする。そのために、教科書に設けられている問を積極的に活用し歴史を多角的、多面的に捉えられるようにしていく。</p> <p>知識、思考力、表現力、主体性を図る課題レポートを課す。</p> |
|---|

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|------|----------|----|--|
| 前期中間 | 4月 | 27 | I 諸地域の歴史的特異の形成 ①文明の成立と古代文明の特質 ・文明の誕生 ・南アジアの古代文明 ・南北アメリカ文明 ・古代オリエント文明とその周辺 ・中国の古代文明 |
| | 5月 6月 | | ②中央ユーラシアと東アジア世界 ・中央ユーラシと東アジア世界 ・中国の動乱と変容 ・秦、漢帝国 ・東アジア文化圏の形成 |
| 前期期末 | 7月 | 27 | ③南アジア世界と東南アジア世界の展開 ・仏教の成立と南アジアの統一国家 ・東南アジア世界の形成と展開 ・インド古典文化とヒンドゥー教の定着 |
| | 8月 9月 | | ④西アジアと地中海周辺の国家形成 ・イラン諸国家の興亡とイラン文明 ・ローマと地中海支配 ・ギリシア人の都市国家 ・キリスト教の成立と発展 ⑤イスラーム教の成立と発展 ・アラブの大征服とイスラーム政権の成立 ・ヨーロッパ世界の形成 |
| 後期中間 | 10月 | 26 | II 諸地域の交流・再編 ⑥イスラーム教の伝播と西アジアの動向 ・イスラーム教の諸地域への伝播 ・西アジアの動向 |
| | 11月 | | ⑦ヨーロッパ世界の変容と展開 ・西ヨーロッパの封建社会とその展開 ・西ヨーロッパ世界の変容 ・東ヨーロッパ世界の展開 ・西ヨーロッパの中世文化 ⑧東アジア世界の展開とモンゴル帝国 ・アジア諸地域の自律かと宋 ・モンゴルの大帝国 |
| 後期期末 | 12月 | 25 | ⑨大交易・大交流の時代 ・アジア交易世界の興隆 ・ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容 |
| | 1月 2月 | | ⑩アジアの諸帝国の繁栄 ・オスマン帝国とサファヴィー朝 ・清代の中国と隣接諸地域 ・ムガル帝国の興隆 ⑪近世ヨーロッパ世界の動向 ・ルネサンス ・主権国家体制の成立 ・北欧、東欧の動向 ・宗教改革 ・オランダ、イギリス、フランスの台頭 ・科学革命と啓蒙思想 |

科目 数学Ⅱ

授業時数 4 単位

履修学年 2 学年

目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、日常生活における様々な事象を数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|--|--|---|
| 使える 活用Ⅱ | いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に | 数の範囲や式の性質、座標平面上の図形について構成要素間の関係、関数関係や関数の局所的な変化について着目し、事象を論理的に考察した上で、問題解決の過程を振り返って統合的・発展的に考察する力が身に付いている。 | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いており、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 |
| できる 活用Ⅰ | いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化することができる。 | 数の範囲や式の性質、座標平面上の図形について構成要素間の関係、関数関係や関数の局所的な変化について着目し、事象を論理的に考察した上で数学的に適格に表現することができる。 | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いており、問題解決の過程を振り返って考察を深めることができる。 |
| わかる 習得 | いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 | 数の範囲や式の性質、座標平面上の図形について構成要素間の関係、関数関係や関数の局所的な変化について着目し、事象を論理的に考察することができる。 | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いている。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [知識のある人] [広い視野を持つことができる人] | [思考できる人] [挑戦する人] | [探究する人] [振り返りができる人] |
| 評価方法 | 小テスト 定期考査(基本的知識・技能) 授業内テスト | 定期考査(記述) 授業内テスト | 授業に臨む姿勢 振り返り 「課題学習」への取り組み |

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「数学Ⅱ Standard」東京書籍
- ・問題集「STAGE 数学Ⅱ + B」東京書籍
- ・参考書「チャート式解法と演習 数学Ⅱ + B」数研出版

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・各内容について、数学Ⅰ・Aとの関連を十分に考慮して授業をすすめる。
- ・授業の中で様々な「問いかけ」を行いながら、「知識及び技能」の定着を図るとともに、「思考力、判断力、表現力等」を養う。
- ・各単元「investigation」のコーナーで課題学習に取り組むことで学習したことをさらに深く探究し、グループワークなどを取り入れながら「主体的に学習に取り組む態度」を養う。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----------|-----|----|---|
| 前期 中間 | 4月 | 38 | 1章 方程式・式と証明 1節 多項式・分数式の計算 (1 多項式の乗法と因数分解, 二項定理 2 多項式の除法) 2節 2次方程式 (1 複素数とその計算 2 解の公式 3 解と係数の関係) 3節 高次方程式 (1 因数分解と簡単な高次方程式) 4節 式と証明 (1 恒等式 2 不等式の証明) |
| | 5月 | | |
| | 6月 | | |
| 前期 期末 | 7月 | 38 | 2章 図形と方程式 1節 点と直線 (1 2点間の距離 2 内分点・外分点 3 直線の方程式) 2節 円 (1 円の方程式 2 円と直線) 3節 軌跡と領域 (1 軌跡とその方程式 2 不等式の表す領域) 3章 三角関数 1節 三角関数 (1 一般角と弧度法 2 三角関数) |
| | 8月 | | |
| | 9月 | | |
| 後期 中間 | 10月 | 27 | 3章 三角関数 1節 三角関数 (3 三角関数の性質 4 三角関数のグラフ 5 三角関数を含む方程式不等式) 2節 加法定理 (1 加法定理とその応用 2 三角関数の合成) 4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数 (1 指数の拡張 2 指数関数とそのグラフ) 2節 対数関数 (1 対数とその性質 2 対数関数とそのグラフ 3 常用対数) |
| | 11月 | | |
| | 12月 | | |
| 後期 期末 | 12月 | 37 | 5章 微分と積分 1節 微分の考え (1 導関数 2 導関数の計算 3 関数のグラフと増減) 2節 積分の考え (1 原始関数 2 定積分 3 面積) |
| | 1月 | | |

科目 **数学Ⅱ**

授業時数 **3 単位**

履修学年 **2 学年**

目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、日常生活における様々な事象を数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|--|--|---|
| 使える 活用Ⅱ | いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に | 数の範囲や式の性質、座標平面上の図形について構成要素間の関係、関数関係や関数の局所的な変化について着目し、事象を論理的に考察した上で、問題解決の過程を振り返って統合的・発展的に考察する力が身に付いている。 | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いており、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 |
| できる 活用Ⅰ | いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化することができる。 | 数の範囲や式の性質、座標平面上の図形について構成要素間の関係、関数関係や関数の局所的な変化について着目し、事象を論理的に考察した上で数学的に適格に表現することができる。 | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いており、問題解決の過程を振り返って考察を深めることができる。 |
| わかる 習得 | いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 | 数の範囲や式の性質、座標平面上の図形について構成要素間の関係、関数関係や関数の局所的な変化について着目し、事象を論理的に考察することができる。 | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いている。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [知識のある人] [広い視野を持つことができる人] | [思考できる人] [挑戦する人] | [探究する人] [振り返りができる人] |
| 評価方法 | 小テスト 定期考査(基本的知識・技能) 授業内テスト | 定期考査(記述) 授業内テスト | 授業に臨む姿勢 振り返り 「課題学習」への取り組み |

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「数学Ⅱ Standard」東京書籍
- ・問題集「STAGE 数学Ⅱ + B」東京書籍
- ・参考書「チャート式解法と演習 数学Ⅱ + B」数研出版

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・各内容について、数学Ⅰ・Aとの関連を十分に考慮して授業をすすめる。
- ・授業の中で様々な「問いかけ」を行いながら、「知識及び技能」の定着を図るとともに、「思考力、判断力、表現力等」を養う。
- ・各単元「investigation」のコーナーで課題学習に取り組むことで学習したことをさらに深く探究し、グループワークなどを取り入れながら「主体的に学習に取り組む態度」を養う。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----------|-----------------|----|--|
| 前期 中間 | 4月 | 40 | 1章 方程式・式と証明 1節 多項式・分数式の計算 (1 多項式の乗法と因数分解, 二項定理 2 多項式の除法) 2節 2次方程式 (1 複素数とその計算 2 解の公式 3 解と係数の関係) 3節 高次方程式 (1 因数分解と簡単な高次方程式) 4節 式と証明 (1 恒等式 2 不等式の証明) |
| | 5月 6月 | | 2章 図形と方程式 1節 点と直線 (1 2点間の距離 2 内分点・外分点 3 直線の方程式) |
| 前期 期末 | 7月 | 40 | 2節 円 (1 円の方程式 2 円と直線) 3節 軌跡と領域 (1 軌跡とその方程式 2 不等式の表す領域) |
| | 8月 9月 | | 3章 三角関数 1節 三角関数 (1 一般角と弧度法 2 三角関数 3 三角関数の性質 4 三角関数のグラフ 5 三角関数を含む方程式不等式) 2節 加法定理 (1 加法定理とその応用 2 三角関数の合成) 4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数 (1 指数の拡張 2 指数関数とそのグラフ) 2節 対数関数 (1 対数とその性質 2 対数関数とそのグラフ 3 常用対数) |
| 後期 中間 | 10月 | 25 | 5章 微分と積分 1節 微分の考え (1 導関数 2 導関数の計算 3 関数のグラフと増減) 2節 積分の考え (1 原始関数 2 定積分 3 面積) |
| | 11月 | | 数学B ↓ |
| 後期 期末 | 12月 1月 2月 | | ↓ |

科目 数学B

授業時数 2 単位

履修学年 2 学年

目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、日常生活における様々な事象を数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|---|--|---|
| 使える 活用Ⅱ | 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化し、数学的に解釈し表現・処理したりする技能が身に付いている。 | 離散的な変化の規則性、確率分布や標本分布の性質に着目し、事象を数学的・批判的に考察した上で問題解決の過程を振り返って考察する力が身に付いている。 | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いており、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 |
| できる 活用Ⅰ | 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化し、数学的に解釈し表現することができる。 | 離散的な変化の規則性、確率分布や標本分布の性質に着目し、事象を数学的に適格に表現することができる。 | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いており、問題解決の過程を振り返って考察を深めることができる。 |
| わかる 習得 | 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 | 離散的な変化の規則性、確率分布や標本分布の性質に着目し、事象を数学的・批判的に考察することができる。 | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いている。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [知識のある人] [広い視野を持つことができる人] | [思考できる人] [挑戦する人] | [探究する人] [振り返りができる人] |
| 評価方法 | 小テスト 定期考査(基本的知識・技能) 授業内テスト | 定期考査(記述) 授業内テスト | 授業に臨む姿勢 振り返り 「課題学習」への取り組み |

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「数学B Standard」東京書籍
- ・問題集「STAGE 数学Ⅱ+B」東京書籍
- ・参考書「チャート式解法と演習 数学Ⅱ+B」数研出版

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・各内容について、中学校数学科との関連を十分に考慮して授業をすすめる。
- ・授業の中で様々な「問いかけ」を行いながら、「知識及び技能」の定着を図るとともに、「思考力、判断力、表現力等」を養う。
- ・各単元「investigation」のコーナーで課題学習に取り組むことで学習したことをさらに深く探究し、グループワークなどを取り入れながら「主体的に学習に取り組む態度」を養う。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----------|-----------------|----|--|
| 前期 中間 | 4月 5月 6月 | 18 | 第1章 数列 1節 数列 (1 数列 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和) |
| | 7月 8月 9月 | 18 | 2節 いろいろな数列 (1 数列の和と記号 Σ 2 いろいろな数列) 3節 漸化式と数学的帰納法 (1 漸化式 2 数学的帰納法) 2章 統計的な推測 1節 標本調査 (1 母集団と標本) 2節 確率分布 (1 確率分布 2 確率変数の平均と分散の性質 3 確率変数の和と席 4 二項分布) |
| 後期 中間 | 10月 11月 | 16 | 3節 正規分布 (1 正規分布) 4節 統計的な推測 (1 母平均の推定 2 仮説検定) |
| | 12月 1月 2月 | 18 | 3章 数学と社会生活 1節 数学的モデル化 (1 数学的モデルを用いた予測) 2節 関数モデル (1 関数モデルを用いた予測) 3節 確率モデル (1 確率モデルを用いた予測) 4節 幾何モデル (1 幾何モデルを用いた考察) 5節 フェルミ検定 (1 フェルミ検定による推定) |

科目 数学B

授業時数 2 単位

履修学年 2 学年

目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、日常生活における様々な事象を数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|---|--|---|
| 使える 活用Ⅱ | 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化し、数学的に解釈し表現・処理したりする技能が身に付いている。 | 離散的な変化の規則性、確率分布や標本分布の性質に着目し、事象を数学的・批判的に考察した上で問題解決の過程を振り返って考察する力が身に付いている。 | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いており、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 |
| できる 活用Ⅰ | 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化し、数学的に解釈し表現することができる。 | 離散的な変化の規則性、確率分布や標本分布の性質に着目し、事象を数学的に適格に表現することができる。 | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いており、問題解決の過程を振り返って考察を深めることができる。 |
| わかる 習得 | 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 | 離散的な変化の規則性、確率分布や標本分布の性質に着目し、事象を数学的・批判的に考察することができる。 | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いている。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [知識のある人] [広い視野を持つことができる人] | [思考できる人] [挑戦する人] | [探究する人] [振り返りができる人] |
| 評価方法 | 小テスト 定期考査(基本的知識・技能) 授業内テスト | 定期考査(記述) 授業内テスト | 授業に臨む姿勢 振り返り 「課題学習」への取り組み |

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「数学B Standard」東京書籍
- ・問題集「STAGE 数学Ⅱ+B」東京書籍
- ・参考書「チャート式解法と演習 数学Ⅱ+B」数研出版

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・各内容について、中学校数学科との関連を十分に考慮して授業をすすめる。
- ・授業の中で様々な「問いかけ」を行いながら、「知識及び技能」の定着を図るとともに、「思考力、判断力、表現力等」を養う。
- ・各単元「investigation」のコーナーで課題学習に取り組むことで学習したことをさらに深く探究し、グループワークなどを取り入れながら「主体的に学習に取り組む態度」を養う。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----------|-----------------|----|--|
| 前期 中間 | 4月 5月 6月 | | 数学Ⅱ |
| | 7月 8月 9月 | | |
| 後期 中間 | 10月 11月 | 20 | 第1章 数列 1節 数列 (1 数列 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和) 2節 いろいろな数列 (1 数列の和と記号 Σ 2 いろいろな数列) |
| | 12月 1月 2月 | 50 | 3節 漸化式と数学的帰納法 (1 漸化式 2 数学的帰納法) 2章 統計的な推測 1節 標本調査 (1 母集団と標本) 2節 確率分布 (1 確率分布 2 確率変数の平均と分散の性質 3 確率変数の和と席 4 二項分布) 3節 正規分布 (1 正規分布) 4節 統計的な推測 (1 母平均の推定 2 仮説検定) |

科目 **物理基礎**

授業時数 2 単位

履修学年 2 学年

目標 物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|--|---|---|
| 使える 活用Ⅱ | 物体の運動と様々なエネルギーについて基礎的な知識を駆使して複雑な事象を理解することができる。また、科学的に探究するための観察、実験などを自ら計画実行できる。 | 複雑な事象について観察、実験などを計画実行し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述し、考えを論理的に表現することができる。 | 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、様々な事象の因果関係を考えたり、考えを他者と伝え合うことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。 |
| できる 活用Ⅰ | 物体の運動と様々なエネルギーについて基礎的な知識を身に付け活用できる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 | 観察、実験などを計画実行し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。 | 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、自らの考えを他者と伝え合うことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。 |
| わかる 習得 | 物体の運動と様々なエネルギーについての基本を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 | 観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。 | 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | 【知識のある人】 【広い視野を持つことができる人】 | 【思考できる人】 【挑戦する人】 | 【探究する人】 【振り返りができる人】 |
| 評価方法 | 定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(基本知識・技能) | 定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(記述) | 授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(実験レポートの自主的な取り組みや記述) |

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「高等学校 物理基礎」啓林館
- ・「センサー 物理基礎 3rd Edition」啓林館

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを相互に関連させながら、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。
 学習内容の特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得できるようにするとともに、報告書などを作成したり、発表を行う機会を設けたりする。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----------|----------|----|---|
| 前期 中間 | 4月 | 16 | (1) 物体の運動とエネルギー (ア) 運動の表し方 ア 物理量の測定と扱い方 イ 運動の表し方 ウ 直線運動の加速度 |
| | 5月 6月 | | (イ) 様々な力とその働き ア 様々な力 イ 力のつり合い |
| 前期 期末 | 7月 | 16 | ウ 運動の法則 エ 物体の落下運動 |
| | 8月 9月 | | (ウ) 力学的エネルギー ア 運動エネルギーと位置エネルギー イ 力学的エネルギーの保存 |
| 後期 中間 | 10月 | 16 | (2) 様々な物理現象とエネルギーの利用 (ア) 波 ア 波の性質 イ 音と振動 |
| | 11月 | | (イ) 熱 ア 熱と温度 イ 熱の利用 |
| 後期 期末 | 12月 | 22 | (ウ) 電気 ア 物質と電気抵抗 イ 電気の利用 |
| | 1月 2月 | | (エ) エネルギーとその利用 ア エネルギーとその利用 (オ) 物理学が拓ひらく世界 ア 物理学が拓ひらく世界 |

科目 物理

授業時数 2 単位

履修学年 2 学年

目標 物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|--|---|---|
| 使える 活用Ⅱ | 物理学の基本的な概念や原理・法則について基礎的な知識を駆使して複雑な事象を理解することができる。また、科学的に探究するための観察、実験などを自ら計画実行できる。 | 複雑な事象について観察、実験などを計画実行し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述し、考えを論理的に表現することができる。 | 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、様々な事象の因果関係を考えたり、考えを他者と伝え合うことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。 |
| できる 活用Ⅰ | 物理学の基本的な概念や原理・法則について基礎的な知識を身に付け活用できる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 | 観察、実験などを計画実行し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。 | 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、自らの考えを他者と伝え合うことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。 |
| わかる 習得 | 物理学の基本的な概念や原理・法則についての基本を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 | 観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。 | 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [知識のある人] [広い視野を持つことができる人] | [思考できる人] [挑戦する人] | [探究する人] [振り返りができる人] |
| 評価方法 | 定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(基本知識・技能) | 定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(記述) | 授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(実験レポートの自主的な取り組みや記述) |

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「高等学校 物理」啓林館
- ・「セミナー 物理基礎+物理 新課程版」第一学習社

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを相互に関連させながら、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。
 学習内容の特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得できるようにするとともに、報告書などを作成したり、発表を行う機会を設けたりする。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|------|-----|----|--|
| 前期中間 | 4月 | | |
| | 5月 | | |
| 前期期末 | 6月 | | |
| | 7月 | | |
| 後期中間 | 8月 | | |
| | 9月 | | |
| 後期期末 | 10月 | 35 | (1) 様々な運動 (ア) 平面内の運動と剛体のつり合い ア 曲線運動の速度と加速度 イ 放物運動 ウ 剛体のつり合い (イ) 運動量 ア 運動量と力積 イ 運動量の保存 ウ 衝突と力学的エネルギー (ウ) 円運動と単振動 ア 円運動 イ 単振動 ウ 万有引力 エ 気体分子の運動 |
| | 11月 | | |
| 後期期末 | 12月 | 35 | (2) 波 (ア) 波の伝わり方 ア 波の伝わり方とその表し方 イ 音 ウ 光 (3) 電気と磁気 (ア) 電気と電流 ア 電荷と電界 イ 電界と電位 ウ 電気容量 エ 電気回路 |
| | 1月 | | |
| | 2月 | | |

科目 化学基礎

授業時数 2 単位

履修学年 2 学年

目標 物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|---|--|--|
| 使える 活用Ⅱ | 日常生活や社会と関連した、物質とその変化についての基礎的な知識を駆使して、複雑な事象を理解することができる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に着けている。 | 複雑な事象について観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述し、考えを論理的に表現することができる。 | 物質とその変化について主体的に関わり、身のまわりの複雑な事象の原理を考えたり、自らの考えを他者と伝えあうことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。 |
| できる 活用Ⅰ | 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、その知識を活用できる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に着けている。 | 観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述し、論理的に考察することができる。 | 物質とその変化について主体的に関わり、自らの考えを他者と伝えあうことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。 |
| わかる 習得 | 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に着けている。 | 観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。 | 物質とその変化について主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [知識のある人] [広い視野を持つことができる人] | [思考できる人] [挑戦する人] | [探究する人] [振り返りができる人] |
| 評価方法 | 定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(基本知識・技能) | 定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(考察記述) | 授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(実験レポートの自主的な取り組みや記述) |

■何で学ぶか [教材]

センサー(啓林館)
i版化学基礎(啓林館)

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを相互に関連させながら、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。
学習内容の特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得できるようにするとともに、報告書などを作成したり、発表を行う機会を設けたりします。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----------|-----------------|----|---|
| 前期 中間 | 4月 5月 6月 | 16 | (1)化学と人間生活 (ア)化学と物質 ア 化学の特徴 イ 物質の分離・精製 ウ 単体と化合物 エ 熱運動と物質の三態 (2)物質の構成 (ア)物質の構成粒子 ア 原子の構造 イ 電子配置と周期表 |
| | 7月 8月 9月 | 16 | (イ)物質と化学結合 ア イオンとイオン結合 イ 分子と共有結合 ウ 金属と金属結合 |
| | 10月 11月 | 16 | (3)物質の変化とその利用 (ア)物質と化学反応式 ア 物質 イ 化学反応式 |
| 後期 期末 | 12月 1月 2月 | 22 | (イ)化学反応 ア 酸・塩基と中和 イ 酸化と還元 (ウ)化学が拓く世界 ア 化学が拓く世界 |

科目 化学

授業時数 3 単位

履修学年 2 学年

目標 化学的な事象・現象についての観察, 実験を行うことなどを通して, 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め, 科学的に探究する力や態度を育成する。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|---|---|---|
| 使える 活用Ⅱ | 化学の基本的な概念や原理・法則について基礎的な知識を駆使して複雑な事象を理解することができる。また, 科学的に探究するための観察, 実験などを自ら計画実行できる。 | 複雑な事象について観察, 実験などを計画実行し, 科学的に探究することができる。また, その結果を正しく記述し, 考えを論理的に表現することができる。 | 化学的な事象・現象に主体的に関わり, 様々な事象の因果関係を考えたり, 考えを他者と伝え合うことで理解を深め, 科学的に探究しようとする態度を身に付けている。 |
| できる 活用Ⅰ | 化学の基本的な概念や原理・法則について基礎的な知識を身に付け活用できる。また, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 | 観察, 実験などを計画実行し, 科学的に探究することができる。また, その結果を正しく記述できる。 | 化学的な事象・現象に主体的に関わり, 自らの考えを他者と伝え合うことで理解を深め, 科学的に探究しようとする態度を身に付けている。 |
| わかる 習得 | 化学の基本的な概念や原理・法則についての基本を理解するとともに, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 | 観察, 実験などを行い, 科学的に探究することができる。また, その結果を正しく記述できる。 | 化学的な事象・現象に主体的に関わり, 科学的に探究しようとする態度を身に付けている。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [知識のある人] [広い視野を持つことができる人] | [思考できる人] [挑戦する人] | [探究する人] [振り返りができる人] |
| 評価方法 | 定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(基本知識・技能) | 定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(記述) | 授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(実験レポートの自主的な取り組みや記述) |

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「高等学校 化学」啓林館
- ・「セミナー 化学基礎+化学 新課程版」第一学習社

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

「知識及び技能」と「思考力, 判断力, 表現力等」とを相互に関連させながら, 科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。
 学習内容の特質に応じて, 情報の収集, 仮説の設定, 実験の計画, 実験による検証, 実験データの分析・解釈, 法則性の導出などの探究の方法を習得できるようにするとともに, 報告書などを作成したり, 発表を行う機会を設けたりする。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----------|-------------------|----|---|
| 前期 中間 | 4 5 6 月 | 27 | 第1部 物質の状態 第1章 固体の構造 (1) 化学結合と結晶 (2) 結晶の構造 (3) アモルファス(非晶質) 第2章 物質の状態変化 (1) 状態変化 (2) 気液平衡と蒸気圧 第3章 気体の性質 (1) 気体の体積の変化 (2) 気体の状態方程式 |
| | 7 8 9 月 | 27 | 第4章 溶液の性質 (1) 溶解と溶解度 (2) 希薄溶液の性質 (3) コロイド 第2部 物質の変化と平衡 第1章 化学反応と熱・光エネルギー (1) 反応熱とエンタルピー (2) ヘスの法則 (3) 化学反応と光 |
| | 10 11 月 | 26 | 第2章 化学反応と電気エネルギー (1) 電池 (2) 電気分解 第3章 反応速度 (1) 反応の速さ (2) 化学反応と触媒 |
| 後期 期末 | 12 1 2 月 | 25 | 第4章 化学平衡 (1) 化学平衡とその移動 (2) 電離平衡 |

科目 生物

授業時数 2 単位

履修学年 2 学年

目標 生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|--|---|--|
| 使える 活用Ⅱ | 生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。 | 問題解決の為の観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、検証、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書の作成、発表を通して科学的に探究する力が育まれている。 | 生物や生物現象に対して主体的に関わり、課題の解決や科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとする態度が養われている。 |
| できる 活用Ⅰ | 生物や生物現象についての基礎的な知識を身に付け活用できる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 | 課題解決の為の観察や実験等を計画、実行でき、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく分析、記述することができる。 | 生物や生物現象に対して主体的に関わり、課題の解決や科学的に探究しようすることができる。また、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようと思えることができる。 |
| わかる 習得 | 生物や生物現象についての基本を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な事が行える。 | 観察、実験などを通して科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。 | 生物や生物現象に対して主体的に関わり、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようと思えることができる。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | <ul style="list-style-type: none"> 知識のある人 広い視野を持つことができる人 | <ul style="list-style-type: none"> 思考できる人 振り返りができる人 | <ul style="list-style-type: none"> 探究する人 思いやりのある人 |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査 実験レポート(基本知識・技能) 課題確認テスト(小テスト) | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査 実験レポート(記述) 課題確認テスト(小テスト) | <ul style="list-style-type: none"> 授業に臨む姿勢や意欲 実験レポート(態度・記述) パフォーマンス評価 |

■何で学ぶか [教材]

- 教科書：『生物』 / 数研出版
- 準拠ノート：『リードLightノート 生物』 新課程版 / 数研出版
- 問題集：『セミナー 生物』 新課程版 / 第一学習社
- 図説：スクエア最新図説生物 新課程 / 第一学習社

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・教科書、図説、準拠ノートを活用して生物に関する基礎的な知識を体系的に学び、問題集を利用してその知識の定着を図る。
- ・科学的に探究する姿勢を養うために、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの方法を習得する。
- ・授業やレポートの作成・発表を通して生物や生物現象についての理解を深め、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養っていく。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----------|-------------------------|----|---|
| 前期 中間 | 4 月 5 6 月 | 15 | 第1章 生物の進化 第1節 生命の起源と生物の進化 第2節 遺伝子の変化と多様性 第3節 遺伝子の組み合わせの変化 第4節 進化のしくみ 第5節 生物の系統と進化 第6節 人類の系統と進化 |
| 前期 期末 | 7 月 5 9 月 | 20 | 第2章 細胞と分子 第1節 生体物質と細胞 第2節 タンパク質の構造と性質 第3節 化学反応にかかわるタンパク質 第4節 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質 第3章 代謝 第1節 代謝とエネルギー 第2節 呼吸と発酵 第3節 光合成 |
| 後期 中間 | 10 月 5 11 月 | 20 | 第4章 遺伝情報の発現と発生 第1節 DNAの構造と複製 第2節 遺伝情報の発現 第3節 遺伝子の発現調節 第4節 発生と遺伝子発現 第5節 遺伝子を扱う技術 |
| 後期 期末 | 12 月 5 2 月 | 15 | 第5章 動物の反応と行動 第1節 刺激の受容 第2節 ニューロンとその興奮 第3節 情報の統合 第4節 刺激への反応 第5節 動物の行動 |

| | | | |
|-----|--|------|------|
| 科 目 | 地学基礎 | 授業時数 | 2 単位 |
| | | 履修学年 | 2 学年 |
| 目 標 | 日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、科学的に探究する力を養う。また、地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。 | | |

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
|---------------|--|--|--|---|
| 評価規準「育ちのプロセス」 | 使える 活用Ⅱ | 日常生活や社会と関連した、地球や地球を取り巻く環境についての基礎的な知識を駆使して、複雑な事象を理解することができる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に着けている。 | 複雑な事象について観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述し、考えを論理的に表現することができる。 | 地球や地球を取り巻く環境について主体的に関わり、身のまわりの複雑な事象の原理を考えたり、自らの考えを他者と伝えあうことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。 |
| | できる 活用Ⅰ | 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、その知識を活用することができる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に着けている。 | 観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述し、論理的に考察することができる。 | 地球や地球を取り巻く環境について主体的に関わり、自らの考えを他者と伝えあうことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。 |
| | わかる 習得 | 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に着けている。 | 観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。 | 地球や地球を取り巻く環境について主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [知識のある人] [広い視野を持つことができる人] | [思考できる人] [挑戦する人] | [探究する人] [振り返りができる人] | |
| 評価方法 | 定期考査 課題確認テスト(小テストなど) 実験レポート(基本知識・技能) | 定期考査 課題確認テスト(小テストなど) 実験レポート(考察記述) | 授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(実験レポートの自主的な取り組みや記述) | |

■何で学ぶか [教材]

| |
|---|
| 高等学校地学基礎(啓林館) 新課程フォトサイエンス 地学図録(数研出版) 新課程リードα 地学基礎(数研出版) |
|---|

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

| |
|--|
| 「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを相互に関連させながら、地学の基本的な概念の形成を図るとともに、地学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成する。 「探究活動」においては、各項目の学習活動と関連させながら、資料を活用するとともに、観察、実験などを行い、報告書を作成させたり発表を行う機会を設けたりする。また、その特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得させるようにする。その際、コンピュータや情報通信ネットワークなどの適切な活用を図る。 |
|--|

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----------|-----|----|---|
| 前期 中間 | 4月 | 15 | 第1部 固体地球とその活動 第1章 地球 1.地球の概観：地球の形と大きさについて理解する。 2.地球の内部構造：地球内部の層構造とその状態について理解する。 第2章 地球と生命の進化 1.プレートテクトニクスと地球の活動：プレートの分布と運動、およびプレート運動に伴う大地形や地質構造、変成岩の形成について理解する。 2.地震：地震の発生のしくみについて理解する。 3.火山活動と火成岩の形成：火山活動と火成岩の形成のしくみについて理解する。 第3章 地球史の読み方 1.地層からわかること：地層に基づいて地球の歴史を知ることができる理由を理解する。 2.地層の形成：流水のはたらきによって地層や堆積岩が形成されるしくみについて理解する。 3.地層の読み方：地質構造や化石などの地層の記録や、地層の対比などに基づいて、地球の歴史を知る方法を理解する。 |
| | 5月 | | |
| | 6月 | | |
| 前期 期末 | 7月 | 20 | 第2部 大気と海洋 第1章 大気の構造 1.大気圏：大気圏の層構造について理解する。 2.水と気象：雲の発生について、大気中の水蒸気のみと関連づけて理解する。 第2章 太陽放射と大気・海水の運動 1.地球のエネルギー収支：地球全体の熱収支について理解する。 2.大気の大循環：緯度によるエネルギー収支の違いを理解する。大気の大循環とそれによる地球規模の熱の輸送について理解する。 3.海水の循環：海水の運動とそれによる地球規模の熱の輸送について理解する。 第3章 日本の天気 1.日本の位置：日本の天気に影響を与える偏西風の位置や季節風のしくみについて理解する。 2.冬から春の天気：日本で見られる冬から春の天気について理解する。 3.夏から秋の天気：日本で見られる夏から秋の天気について理解する。 |
| | 8月 | | |
| | 9月 | | |
| 後期 中間 | 10月 | 20 | 第3部 移り変わる地球 第1章 地球の誕生 1.宇宙の誕生：宇宙の誕生と恒星としての太陽の誕生について理解する。 2.太陽系の誕生：太陽系の誕生と惑星の成因について理解する。太陽系の各天体の違いについて考える。 第2章 地球と生命の進化 1.先カンブリア時代：地球の誕生から生命の出現にいたる地球の歴史について理解する。 2.顕生代：地球環境の変化と生物の活動の相互関係および古生物の変遷に基づいて地質年代が区分されることについて理解する。 第3章 地球史の読み方 1.地層からわかること：地層に基づいて地球の歴史を知ることができる理由を理解する。 2.地層の形成：流水のはたらきによって地層や堆積岩が形成されるしくみについて理解する。 3.地層の読み方：地質構造や化石などの地層の記録や、地層の対比などに基づいて、地球の歴史を知る方法を理解する。 |
| | 11月 | | |
| | 12月 | | |
| 後期 期末 | 12月 | 15 | 第4部 自然との共生 1.地球環境と人類：人類が自然から多様な恩恵を受けていることを理解する。 2.地震災害・火山災害：地震災害、火山災害について理解する。 3.気象災害：気象災害について理解する。 4.災害と社会：地震や火山、気象の観測方法と対策について理解させる。地域の特徴に合わせた防災対策が必要であることを理解する。 5.人間生活と地球環境の変化：人間生活と地球環境の変化の関わりについて理解する。 |
| | 1月 | | |
| | 2月 | | |

科目 **保健**

授業時数

1 単位

履修学年

2 学年

目標 保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質能力を育成する。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|---|---|--|
| 使える 活用Ⅱ | 個人及び社会生活における健康・安全について基礎的な知識を駆使して様々な状況に応じて活用できる。また、自他の健康の保持増進のための必要なことを合理的、計画的に実践することができる。 | 健康について自他や社会の課題を一人だけでなく他者と共に把握することができ、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に様々な方法で適確に伝える力を身につけている。 | 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりのための方策を様々な視点から目指そうとし、状況に応じて適確に実践しようとしており、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を十分に身につけている。 |
| できる 活用Ⅰ | 個人及び社会生活における健康・安全について基礎的なことを理解し、活用できる。また、自他の健康の保持増進のために必要なことを実践することができる。 | 健康について自他や社会の課題を一人だけでなく他者と共に把握することができ、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて様々な方法で他者に伝える力を身につけている。 | 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりのための方策を様々な視点から目指そうとしており、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身につけている。 |
| わかる 習得 | 個人及び社会生活における健康・安全についての基本を理解し、実践できる。 | 健康について自他や社会の課題を自ら発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身につけている。 | 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身につけている。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [知識のある人] [広い視野を持つことができる人] [バランスのとれた人] | [思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人] [振り返りができる人] | [探究する人] [思いやりのある人] [挑戦する人] [信念をもつ人] |
| 評価方法 | 定期考査 保健ノート・学習カード | 定期考査 保健ノート・学習カード 発言や活動の様子 | 授業に取り組む姿勢や意欲 保健ノート・学習カード・レポート等への取り組みや記述 |

■何で学ぶか [教材]

大修館書店 現代高等保健体育・同ノート

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

健康に関する知識と理解を深め、生涯にわたって健康の保持増進を実現できる資質・能力の育成を目指す。ノートや学習カードやレポート等の記述内容や取り組みの様子など、保健の授業における取り組みを総合的に評価する。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|------|-----|----|--|
| 前期中間 | 4月 | 9 | 【生涯を通じる健康】 (ア) 生涯の各段階における健康 |
| | 5月 | | |
| | 6月 | | |
| 前期期末 | 7月 | 9 | 【生涯を通じる健康】 (イ) 労働と健康 【健康を支える環境づくり】 (ア) 環境と健康 |
| | 8月 | | |
| | 9月 | | |
| 後期中間 | 10月 | 9 | 【健康を支える環境づくり】 (イ) 食品と健康 (ウ) 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 (エ) 様々な保健活動や社会的対策 |
| | 11月 | | |
| | 12月 | | |
| 後期期末 | 1月 | 8 | 【健康を支える環境づくり】 (オ) 健康に関する環境づくりと社会参加 【安全な社会生活】 (ア) 安全な社会づくり |
| | 2月 | | |
| | 3月 | | |

科目 **体育**

授業時数 **3 単位**

履修学年 **2 学年**

目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|--|--|---|
| 使える 活用Ⅱ | 運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするための技能をあらゆる状況において発揮でき、運動の多様性や体力の必要性についての知識を身につけて適確に説明できる。 | 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を一人だけでなく他者と合意形成しながら発見することができ、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたこと様々な方法で適確に他者に伝えることができる。 | 公正、協力、責任、参画、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲がすべて身につけており、健康・安全を確保して、状況に応じて生涯にわたって継続して運動に親しむ態度が十分に身につけている。 |
| できる 活用Ⅰ | 運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするための技能を特定の状況において発揮でき、運動の多様性や体力の必要性についての知識を身につけて説明できる。 | 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を一人だけでなく他者と発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを様々な方法で他者に伝えることができる。 | 公正、協力、責任、参画、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲がほぼ身につけており、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけている。 |
| わかる 習得 | 運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするための技能や、運動の多様性や体力の必要性についての知識を身につけている。 | 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけている。 | 公正、協力、責任、参画、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲がいくつか身につけており、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけている。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [知識のある人] [広い視野を持つことができる人] [バランスのとれた人] | [思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人] [振り返りができる人] | [探究する人] [思いやりのある人] [挑戦する人] [信念をもつ人] |
| 評価方法 | ゲーム等における実技レベル 学習カードやレポートの記述内容 | 学習カードやレポートの記述内容 発言や活動の様子 | 授業に取り組む姿勢や意欲 学習カードやレポートへの取り組みや記述 |

■何で学ぶか [教材]

| |
|--|
| |
|--|

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

運動・スポーツに対する知識・技能の向上に加えて、「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の向上も図り、生涯にわたって運動・スポーツに親しむことができる資質・能力の育成を目指す。よって、学習カードやレポート等の記述内容や取り組みの様子など、体育の授業における取り組みを総合的に評価する。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | 時数 | 学習内容 |
|------------------------|----|-------------------|
| 前期中間 4月 5月 6月 | 6 | A 体づくり運動 |
| | 24 | E 球技 |
| 前期期末 7月 8月 9月 | 15 | B 器械運動 D 水泳 G ダンス |
| | 4 | C 陸上競技 |
| | 6 | H 体育理論 |
| 後期中間 10月 11月 | 25 | E 球技 |
| | 25 | E 球技 |
| 後期末 12月 1月 2月 | 25 | E 球技 |

科目 英語コミュニケーションII

授業時数 4 単位

履修学年 2 学年

目標 日常的な話題および社会的な話題を取り扱う中で、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成する

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|---|---|--|
| 使える 活用Ⅱ | 日常的话题および社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 | 日常的话题および社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。 | 教科書を読んだり、内容について話し合う際に、多様な文化や考え方を受け入れ、見方を広げたり、自分から他人に働きかけ、より良い意見や議論を作り出そうとしたりする態度が見受けられる。 |
| できる 活用Ⅰ | 日常的话题および社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 | 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。 | 教科書を読んだり、内容について話し合う際に、多様な文化や考え方を受け入れ、見方を広げたり、他人と協力してより良い意見を作り出そうとしたりする態度が見受けられる。 |
| わかる 習得 | 日常的话题および社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりしようと試みることができる。 | 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。 | 教科書を読んだり、内容について話し合う際に、多様な文化や考え方を受け入れたりと、他人と協力してより良い意見を作り出そうとしたりする態度が見受けられる。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [探究する人] [知識のある人] [広い視野を持つことができる人] | [思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人] | [探究する人] [振り返りができる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人] |
| 評価方法 | 定期考査 課題確認テスト(小テスト) | 定期考査 エッセイライティング プレゼンテーション ディベート | 授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(プレゼンテーションの自主的な取り組みや記述) |

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「Heartening English Communication II」桐原書店
- ・「Heartening English Communication II 学習ノート」桐原書店
- ・「Heartening English Communication II workbook」桐原書店
- ・リスニング教材
- ・サイドリーダー

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- (1) 英語コミュニケーションIでのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための総合的な指導を踏まえ、様々な題材を扱う教科書や付属資料を用いて、英語を読むこと、聞くこと、話すこと(発表・やりとり)、書くことの活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、英語の知識理解、思考判断表現、主体的に学習に取り組む態度を育成します。
- (2) 教科書を読むだけでなく、教科書で話されていることについて英語で自分の考えを表現したり、英語でやり取りをすることもあります。そういった活動の中で、単元のより深い理解であったり、表現するための文法や単語を獲得することを目指します。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | 時数 | 学習内容 |
|------------------------|----|---|
| 前期中間 4月 5月 6月 | 38 | Lesson1 Laughter without Borders Lesson2 The Ongoing Voyages of City |
| 前期期末 7月 8月 9月 | 38 | Lesson3 The World's Most Bicycle-friendly City Lesson4 Can you feel Emotions in Text? Lesson5 Background Music and Sharks |
| 後期中間 10月 11月 | 27 | Lesson6 The Benefits of Play Lesson7 Nursing in a War Zone Lesson8 Hawaii's Debate about a Sacred Mountain |
| 後期末 12月 1月 2月 | 37 | Lesson9 The Next Wave in Artificial Intelligence Lesson10 What If There Were No Moon? |

科目 論理・表現II

授業時数 2単位

履修学年 2学年

目標 中学校などにおけるコミュニケーションを図る資質・能力を踏まえ、三つの領域別の言語活動および、複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、「話すこと」「書くこと」を中心とした発信能力を育成する

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|--|---|---|
| 使える 活用II | 日常的な話題や、社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、正確に理解し、情報や考え気持などをより相手に伝わるように表現するための語句、文法や論理表現を身につけることができる。 | 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落からなる文章を書いて伝えることができるようにする。 | 様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようしたり、他者と協力してより良い方向へと議論を導き出すことができる。 |
| できる 活用I | 日常的な話題や、社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、情報や考え気持などを表現するための語句や文法を身につけている。 | 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落からなる文章を書いて伝えることができるようにする。 | 様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようしたり、他者と協力してより良い意見を作り出すことができる。 |
| わかる 習得 | 日常的な話題や、社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、情報や考え気持などを表現するための語句や文法を身につけようとする。 | 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。 | 様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようしたり、他者と協力してより良い意見にたどり着こうとしている |
| 風越高校の目指す学習者像 | 〔探究する人〕 〔知識のある人〕 〔広い視野を持つことができる人〕 | 〔思考できる人〕 〔コミュニケーション・コラボレーションできる人〕 〔挑戦する人〕 | 〔探究する人〕 〔挑戦する人〕 〔振り返りができる人〕 |
| 評価方法 | 定期考査 課題確認テスト(小テスト) | 定期考査 エッセイライティング プレゼンテーション ディベート | 授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(プレゼンテーションの自主的な取り組みや記述) |

■何で学ぶか【教材】

- ・教科書「FACTBOOK English Logic and Expression I」桐原書店
- ・「FACTBOOK English Logic and Expression II workbook」桐原書店
- ・「FACTBOOK English Logic and Expression II マイノート」桐原書店

■どのように学ぶか【授業の方法／学び方】

- ・中学校における、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためのこれまでの総合的な指導を踏まえ、教科書や付属教材の問題を通して、話したり書いたりする言語活動を中心に、情報や考えなどを表現したり伝え合ったりする能力の向上を図ります。
- ・(2)教科書を読むだけでなく、教科書で話されていることについて英語で自分の考えを表現(プレゼンテーション)したり、英語でやり取り(ディスカッション・ディベート)をすることもあります。自分の考えを表現するためには、高校で習うことは、もちろん中学校で習ってきた語彙や文法が必要になります。そのため、中学や論理表現Iで学習した語彙や文法を復習する時間も取りながら進めていきます。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----------|-----|----|---|
| 前期 中間 | 4月 | 16 | Unit1 How should we lead a healthy lifestyle? Unit2 Steps we can take to Zero Hunger |
| | 5月 | | |
| | 6月 | | |
| 前期 期末 | 7月 | 16 | Unit3 What are good and bad sides of urbanization? Unit4 Is your city sustainable enough? Unit5 Which should get more priority: culture or the environment? |
| | 8月 | | |
| | 9月 | | |
| 後期 中間 | 10月 | 16 | Unit6 How to live a plastic-free life Unit7 Helping others at home and abroad Unit8 Challenges to equality |
| | 11月 | | |
| | 12月 | | |
| 後期 期末 | 1月 | 22 | Unit9 Produce locally, consume locally Unit10 Sharing as one way to create new value |
| | 2月 | | |

科目 総合英語ⅡC

授業時数 3 単位

履修学年 2 学年

目標 日常的な話題および社会的な話題を取り扱う中で、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成する

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|---|---|--|
| 使える 活用Ⅱ | 日常的话题および社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 | 日常的话题および社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。 | 教科書を読んだり、内容について話し合う際に、多様な文化や考え方を受け入れ、見方を広げたり、自分から他人に働きかけ、より良い意見や議論を作り出そうとしたりする態度が見受けられる。 |
| できる 活用Ⅰ | 日常的话题および社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 | 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。 | 教科書を読んだり、内容について話し合う際に、多様な文化や考え方を受け入れ、見方を広げたり、他人と協力してより良い意見を作り出そうとしたりする態度が見受けられる。 |
| わかる 習得 | 日常的话题および社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりしようと試みることができる。 | 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。 | 教科書を読んだり、内容について話し合う際に、多様な文化や考え方を受け入れたりと、他人と協力してより良い意見を作り出そうとしたりする態度が見受けられる。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | 〔探究する人〕 〔知識のある人〕 〔広い視野を持つことができる人〕 | 〔思考できる人〕 〔コミュニケーション・コラボレーションできる人〕 〔挑戦する人〕 | 〔探究する人〕 〔振り返りができる人〕 〔コミュニケーション・コラボレーションできる人〕 〔挑戦する人〕 |
| 評価方法 | 定期考査 課題確認テスト(小テスト) | 定期考査 エッセイライティング プレゼンテーション ディベート | 授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(プレゼンテーションの自主的な取り組みや記述) |

■何で学ぶか【教材】

- ・教科書「Heartening English Communication II」桐原書店
- ・「Heartening English Communication II 学習ノート」桐原書店
- ・「Heartening English Communication II workbook」桐原書店
- ・リスニング教材
- ・サイドリーダー

■どのように学ぶか【授業の方法／学び方】

- (1) 英語コミュニケーションIでのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための総合的な指導を踏まえ、様々な題材を扱う教科書や付属資料を用いて、英語を読むこと、聞くこと、話すこと(発表・やりとり)、書くことの活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、英語の知識理解、思考判断表現、主体的に学習に取り組む態度を育成します。
- (2) 教科書を読むだけでなく、教科書で話されていることについて英語で自分の考えを表現したり、英語でやり取りをすることもあります。そういった活動の中で、単元のより深い理解であったり、表現するための文法や単語を獲得することを目指します。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----------|-----|----|---|
| 前期 中間 | 4月 | 27 | Lesson1 Laughter without Borders Lesson2 The Ongoing Voyages of City |
| | 5月 | | |
| 前期 期末 | 6月 | 27 | Lesson3 The World's Most Bicycle-friendly City Lesson4 Can you feel Emotions in Text? Lesson5 Background Music and Sharks |
| | 7月 | | |
| 後期 中間 | 8月 | 26 | Lesson6 The Benefits of Play Lesson7 Nursing in a War Zone Lesson8 Hawaii's Debate about a Sacred Mountain |
| | 9月 | | |
| 後期 期末 | 10月 | 25 | Lesson9 The Next Wave in Artificial Intelligence Lesson10 What If There Were No Moon? |
| | 11月 | | |
| | 12月 | | |
| | 1月 | | |
| | 2月 | | |

科目 総合英語ⅡL

授業時数 2単位

履修学年 2学年

目標 中学校などにおけるコミュニケーションを図る資質・能力を踏まえ、三つの領域別の言語活動および、複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、「話すこと」「書くこと」を中心とした発信能力を育成する

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|--|---|---|
| 使える 活用Ⅱ | 日常的な話題や、社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、正確に理解し、情報や考え気持などをより相手に伝わるように表現するための語句、文法や論理表現を身につけることができる。 | 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落からなる文章を書いて伝えることができるようにする。 | 様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようしたり、他者と協力してより良い方向へと議論を導き出すことができる。 |
| できる 活用Ⅰ | 日常的な話題や、社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、情報や考え気持などを表現するための語句や文法を身につけている。 | 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落からなる文章を書いて伝えることができるようにする。 | 様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようしたり、他者と協力してより良い意見を作り出すことができる。 |
| わかる 習得 | 日常的な話題や、社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、情報や考え気持などを表現するための語句や文法を身につけていく。 | 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。 | 様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようしたり、他者と協力してより良い意見にたどり着こうとしている。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | 〔探究する人〕 〔知識のある人〕 〔広い視野を持つことができる人〕 | 〔思考できる人〕 〔コミュニケーション・コラボレーションできる人〕 〔挑戦する人〕 | 〔探究する人〕 〔挑戦する人〕 〔振り返りができる人〕 |
| 評価方法 | 定期考査 課題確認テスト(小テスト) | 定期考査 エッセイライティング プレゼンテーション ディベート | 授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(プレゼンテーションの自主的な取り組みや記述) |

■何で学ぶか【教材】

- ・教科書「FACTBOOK English Logic and Expression I」桐原書店
- ・「FACTBOOK English Logic and Expression II workbook」桐原書店
- ・「FACTBOOK English Logic and Expression II マイノート」桐原書店

■どのように学ぶか【授業の方法／学び方】

- ・中学校における、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためのこれまでの総合的な指導を踏まえ、教科書や付属教材の問題を通して、話したり書いたりする言語活動を中心に、情報や考えなどを表現したり伝え合ったりする能力の向上を図ります。
- ・(2)教科書を読むだけでなく、教科書で話されていることについて英語で自分の考えを表現(プレゼンテーション)したり、英語でやり取り(ディスカッション・ディベート)をすることもあります。自分の考えを表現するためには、高校で習うことは、もちろん中学校で習ってきた語彙や文法が必要になります。そのため、中学や論理表現Iで学習した語彙や文法を復習する時間も取りながら進めていきます。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----------|-----|----|---|
| 前期 中間 | 4月 | 16 | Unit1 How should we lead a healthy lifestyle? Unit2 Steps we can take to Zero Hunger |
| | 5月 | | |
| | 6月 | | |
| 前期 期末 | 7月 | 16 | Unit3 What are good and bad sides of urbanization? Unit4 Is your city sustainable enough? Unit5 Which should get more priority: culture or the environment? |
| | 8月 | | |
| | 9月 | | |
| 後期 中間 | 10月 | 16 | Unit6 How to live a prastic-free life Unit7 Helping others at home and abroad Unit8 Challenges to equality |
| | 11月 | | |
| | 12月 | | |
| 後期 期末 | 12月 | 22 | Unit9 Produce locally, consume locally Unit10 Sharing as one way to create new value |
| | 1月 | | |
| | 2月 | | |

| | | | |
|-----|--|------|------|
| 科 目 | 韓国語 | 授業時数 | 2 単位 |
| | | 履修学年 | 2 学年 |
| 目 標 | 日常使用する基本的な表現を修得するとともに、その言語を使用する国の文化を理解する 読む、聞く、話す、書くという言語活動を通して内容を把握するとともに、基本的な内容を伝達する。リズム、イントネーションなど音声的な特徴に注意しながら話す。 | | |

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------|---|---|---|
| 評価規準「育ちのプロセス」 | 使える 活用Ⅱ | 日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、それらに基づいた適切な表現ができる。 | 授業を通して、自分自身を客観視し、出来ないことをできるように努力したうえで、日常会話に使われる表現を利用して、相手と意思疎通をする態度が身についている。さらに、自ら積極的に学んだことを活用しようとする態度が身についている。 |
| | できる 活用Ⅰ | 日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、一定の支援を活用すれば、それらをできる限り考慮した適切な表現ができる。 | 授業を通して、自分自身を客観視し、出来ないことをできるように努力したうえで、日常会話に使われる表現を利用して、相手と意思疎通をする態度が身についている。 |
| | わかる 習得 | 基礎的な言語知識と背景知識を身につけ、多くの支援を活用すれば、日常生活に最低限必要な自己表現ができる技能を身につけている。 | 日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、多くの支援を活用すれば、それらをできる限り考慮した適切な表現をすることができる。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [探究する人] [知識のある人] [広い視野を持つことができる人] | [思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人] | [探究する人] [振り返りができる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人] |
| 評価方法 | 定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物 | 定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物 | 定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物 |

■何で学ぶか [教材]

| |
|-------------------------------|
| 新好きやねんハングル I (好きやねんハングル編集チーム) |
|-------------------------------|

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

| |
|---|
| ○授業では、積極的に学ぼう、話せるようになろうという姿勢で取り組むことが大切です。 |
|---|

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----|-----|----|-------------------------|
| 前期 | 4月 | 5 | ハングル文字を覚える 子音や母音の発音 |
| | 5月 | 6 | 名詞を覚える 発音の規則 |
| | 6月 | 6 | 名詞を覚える パッチムと連音化 |
| | 7月 | 5 | 短い文を書く ～は～です、助詞 |
| | 8月 | 5 | 復習 ハングルの読み方、簡単な文 |
| | 9月 | 8 | 動詞が含まれる文 語尾の活用、助詞 |
| | 10月 | 8 | 長い文を書く ～に～があります |
| | 11月 | 8 | 映画や歌 韓国文化の紹介 |
| | 12月 | 4 | 動詞の活用 語尾の活用 |
| 後期 | 1月 | 6 | 動詞の過去形 語尾の活用 |
| | 2月 | 10 | スピーチ練習 1分間のスピーチ原稿の作成と発表 |
| | 3月 | 5 | 1年間のまとめ |
| | | | |
| | | | |

| | | | |
|-----|--|------|------|
| 科 目 | 中国語 | 授業時数 | 2 単位 |
| | | 履修学年 | 2 学年 |
| 目 標 | 日常使用する基本的な表現を修得するとともに、その言語を使用する国の文化を理解する 読む、聞く、話す、書くという言語活動を通して内容を把握するとともに、基本的な内容を伝達する。リズム、イントネーションなど音声的な特徴に注意しながら話す。 | | |

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------|---|---|---|
| 評価規準「育ちのプロセス」 | 使える 活用Ⅱ | 日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、それらに基づいた適切な表現ができる。 | 授業を通して、自分自身を客観視し、出来ないことをできるように努力したうえで、日常会話に使われる表現を利用して、相手と意思疎通をする態度が身についている。さらに、自ら積極的に学んだことを活用しようとする態度が身についている。 |
| | できる 活用Ⅰ | 日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、一定の支援を活用すれば、それらをできる限り考慮した適切な表現ができる。 | 授業を通して、自分自身を客観視し、出来ないことをできるように努力したうえで、日常会話に使われる表現を利用して、相手と意思疎通をする態度が身についている。 |
| | わかる 習得 | 基礎的な言語知識と背景知識を身につけ、多くの支援を活用すれば、日常生活に最低限必要な自己表現ができる技能を身につけている。 | 日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、多くの支援を活用すれば、それらをできる限り考慮した適切な表現をすることができる。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [探究する人] [知識のある人] [広い視野を持つことができる人] | [思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人] | [探究する人] [振り返りができる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人] |
| 評価方法 | 定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物 | 定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物 | 定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物 |

■何で学ぶか [教材]

| |
|-----------------------|
| 新ゼロからスタート 中国語 (Jリサーチ) |
|-----------------------|

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

| |
|---|
| ○授業では、積極的に学ぼう、話せるようになろうという姿勢で取り組むことが大切です。 |
|---|

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----|-----|----|---------------------------------------|
| 前期 | 4月 | 7 | 発音 単母音、二重母音、三重母音、鼻母音 |
| | 5月 | 6 | 語順のルール 主語、述語、目的語、数字、連体修飾語、連用修飾語、補語 |
| | 6月 | 6 | 基本文 是の文型、省略文、疑問詞疑問文、有の文型、助詞、副詞 |
| | 7月 | 5 | 平叙文 在3つの使い分け、結果補語、自己紹介 |
| | 8月 | 6 | 疑問文① 場所の尋ね方、曜日、日にち |
| | 9月 | 5 | 疑問文② 5種類、まとめ、二重目的語のフレーズ |
| 後期 | 10月 | 8 | 応用文 漢詩や歌など |
| | 11月 | 7 | 翻訳① エッセイの紹介、翻訳をチャレンジ |
| | 12月 | 10 | 翻訳② 翻訳 |
| | 1月 | | 基本問題演習① 「準4級レベル演習」 |
| | 2月 | 10 | 基本問題演習② 「中国百科定」チャレンジ |
| | 3月 | | 1年間のまとめ |
| | | | |
| | | | |

| | | | |
|-----|--|------|------|
| 科 目 | スペイン語 | 授業時数 | 2 単位 |
| | | 履修学年 | 2 学年 |
| 目 標 | 日常使用する基本的な表現を修得するとともに、その言語を使用する国の文化を理解する 読む、聞く、話す、書くという言語活動を通して内容を把握するとともに、基本的な内容を伝達する。リズム、イントネーションなど音声的な特徴に注意しながら話す。 | | |

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------|---|---|---|
| 評価規準「育ちのプロセス」 | 使える 活用Ⅱ | 日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、それらに基づいた適切な表現ができる。 | 授業を通して、自分自身を客観視し、出来ないことをできるように努力したうえで、日常会話に使われる表現を利用して、相手と意思疎通をする態度が身につけている。さらに、自ら積極的に学んだことを活用しようとする態度が身につけている。 |
| | できる 活用Ⅰ | 日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、一定の支援を活用すれば、それらをできる限り考慮した適切な表現ができる。 | 授業を通して、自分自身を客観視し、出来ないことをできるように努力したうえで、日常会話に使われる表現を利用して、相手と意思疎通をする態度が身につけている。 |
| | わかる 習得 | 基礎的な言語知識と背景知識を身に付け、多くの支援を活用すれば、日常生活に最低限必要な自己表現ができる技能を身につけている。 | 日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、多くの支援を活用すれば、それらをできる限り考慮した適切な表現をすることができる。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [探究する人] [知識のある人] [広い視野を持つことができる人] | [思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人] | [探究する人] [振り返りができる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人] |
| 評価方法 | 定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物 | 定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物 | 定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物 |

■何で学ぶか [教材]

| |
|------------------------------|
| ゼロからはじめる書き込み式スペイン語Book (成美堂) |
|------------------------------|

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

| |
|---|
| ○授業では、積極的に学ぼう、話せるようになろうという姿勢で取り組むことが大切です。 |
|---|

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----|-----|----|---|
| 前期 | 4月 | 5 | 基本ルール① アルファベット、綴り字記号、読まない文字 |
| | 5月 | 7 | 基本ルール② アクセント、男性形、女性形、主語に応じて変化する動詞 |
| | 6月 | 8 | 基本ルール③ 単数と複数 |
| | 7月 | 5 | 母音の発音 強母音と弱母音、二重母音・三重母音 |
| | 8月 | 5 | 子音の発音① b, v, c, s, ch, d, f, g, h, j, k, l, |
| | 9月 | 5 | 子音の発音② ll, m |
| | 10月 | 5 | 基本表現① n, p, q, r, rr ,t, w, x, y, z |
| | 11月 | 5 | 基本表現② あいさつ、初対面あいさつ、別れの挨拶 |
| | 12月 | 5 | 日常表現① お礼、謝罪、ご機嫌伺い、受け答え |
| 後期 | 1月 | 10 | 日常表現① 「～をお願いします」「～です」「～にいます/あります」 |
| | 2月 | 5 | 日常表現② 「～を持っています」「～を食べます」「～ではありません」 |
| | 3月 | 5 | 日常表現③ 「～はどこですか」「何/誰/どちら/いくら/どのように」 |
| | | | |
| | | | |

| | | | |
|-----|--|------|------|
| 科 目 | フランス語 | 授業時数 | 2 単位 |
| | | 履修学年 | 2 学年 |
| 目 標 | 日常使用する基本的な表現を修得するとともに、その言語を使用する国の文化を理解する 読む、聞く、話す、書くという言語活動を通して内容を把握するとともに、基本的な内容を伝達する。リズム、イントネーションなど音声的な特徴に注意しながら話す。 | | |

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------|---|---|---|
| 評価規準「育ちのプロセス」 | 使える 活用Ⅱ | 日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、それらに基づいた適切な表現ができる。 | 授業を通して、自分自身を客観視し、出来ないことをできるように努力したうえで、日常会話に使われる表現を利用して、相手と意思疎通をする態度が身につけている。さらに、自ら積極的に学んだことを活用しようとする態度が身につけている。 |
| | できる 活用Ⅰ | 日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、一定の支援を活用すれば、それらをできる限り考慮した適切な表現ができる。 | 授業を通して、自分自身を客観視し、出来ないことをできるように努力したうえで、日常会話に使われる表現を利用して、相手と意思疎通をする態度が身につけている。 |
| | わかる 習得 | 基礎的な言語知識と背景知識を身につけ、多くの支援を活用すれば、日常生活に最低限必要な自己表現ができる技能を身につけている。 | 日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、多くの支援を活用すれば、それらをできる限り考慮した適切な表現をすることができる。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [探究する人] [知識のある人] [広い視野を持つことができる人] | [思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人] | [探究する人] [振り返りができる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人] |
| 評価方法 | 定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物 | 定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物 | 定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物 |

■何で学ぶか [教材]

| |
|-------------|
| ケスクセ? (白水社) |
|-------------|

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

| |
|---|
| ○授業では、積極的に学ぼう、話せるようになろうという姿勢で取り組むことが大切です。 |
|---|

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----|-----|----|----------------------------------|
| 前期 | 4月 | 8 | フランス語の文字と発音 フランス語のアルファベットやその発音 |
| | 5月 | 8 | 基本的な動詞① 第一規則動詞と、それらを用いた表現 |
| | 6月 | 6 | 名詞と冠詞 名詞の性と数。不定冠詞、定冠詞 |
| | 7月 | | 基本的な動詞② 動詞êtreと、それを用いた表現 |
| | 8月 | 5 | 形容詞 形容詞の性と数 |
| | 9月 | 8 | 基本的な動詞③ 動詞avoirと、それを用いた表現 |
| 後期 | 10月 | 5 | 所有形容詞 家族や友人、持ち物や服装に関する表現 |
| | 11月 | 5 | 基本的な動詞④ 動詞faireと、それを用いた表現 |
| | 12月 | 5 | 疑問詞 疑問詞を用いた表現 |
| | 1月 | 5 | 基本的な動詞⑤ 動詞aller, venirとそれらを用いた表現 |
| | 2月 | | まとめ |
| | 3月 | 15 | まとめとして今まで学習したことの復習 |
| | | | |
| | | | |

科目 アカデミックスキル

授業時数 2 単位

履修学年 2 学年

目標

- ・自身の内面を深め、自分が学びたいことと海外進学がどのようにつながっているのかを理解する。
- ・海外大学での学びや、出願方法等についての知識を身につける。
- ・出願時や入学後の学業に必要な英語力や論文作成スキル等を身につける。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|---|---|---|
| 使える 活用Ⅱ | 海外大学での学びや出願方法等についての知識を身につけ、自らの学びや進路と結び付けて考えられる。また、出願時や大学での学業に必要な英語力や論文作成等の技能を身につけており活用することができる。 | 調べて得た内容を多面的に分析・考察し、他者と協力し合い、わかりやすく発表できる。また、論題について自分の考えを英語・日本語で論理的に表現することができる。 | 自身の内面を深める活動に主体的に取り組む、考えを他者と伝え合ったり、様々な問題の解決策を考えることで、学びの目的と海外進学とのつながりを理解しようとする態度を身につけている。 |
| できる 活用Ⅰ | 海外大学での学びや出願方法等についての知識を身につけている。また、出願時や大学での学業に必要な英語力や論文作成等の基礎的な技能を身につけており、ある程度活用することができる。 | 調べて得た内容を分析・考察し、他者と協力し合い、聞き手を意識して発表できる。また、論題について自分の考えを英語・日本語である程度論理的に表現することができる。 | 自身の内面を深める活動に主体的に取り組む、考えを他者と伝え合うことで、自分の学びの目的と海外進学とのつながりを理解しようとする態度を身につけている。 |
| わかる 習得 | 海外大学での学びや出願方法等について基本的な知識を身につけている。また、出願時や大学での学業に必要な英語力や論文作成等の基礎的な技能を身につけている。 | 調べて得た内容を整理し、他者と協力し合い発表できる。また、論題についての自分の考えを英語・日本語で表現することができる。 | 自身の内面を深める活動に主体的に取り組む、学びの目的と海外進学とのつながりを理解しようとする態度を身につけている。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [知識のある人] [広い視野を持つことができる人] | [思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人] | [探究する人] [振り返りができる人] |
| 評価方法 | オンラインカレッジ受講レポート 留学キャラバン参加レポート エッセイライティング ディスカッション | ディスカッション エッセイライティング プレゼンテーション発表 | 自分史作成への取り組み フィールドワークへの取り組み |

■何で学ぶか [教材]

英字新聞、ニュース番組、TED、英論文、海外大学模擬授業動画など

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・他者との対話やワークショップなど、自身の内面を深める活動を通して、自分の学びたい分野を絞る。
- ・現役海外留学生との交流や、各大学HP、留学情報誌を通して、海外進学についての知識を得る。
- ・エッセイの読解やライティング、ディスカッションを通して、進学後に必要となるエッセイライティングの力やスピーキングスキルを養う。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|----------|-----|----|---|
| 前期 中間 | 4月 | 18 | <ul style="list-style-type: none"> ・クラスの間関係作り 英語を使ったアクティビティ、ソーシャルゲーム、コミュニケーションゲーム ・生徒の内面を深める活動 生徒同士でのメンタリング 自分史づくり ALTや担当教員、他教科の教員らが大学で学んだことについて聞く ・英語の講義動画視聴 (あらかじめノートテイキングの方法について学び、動画を視聴する) TED 海外大学模擬授業(留学フェローシップによるオンラインカレッジ / トビタテのYoutube動画視聴) ニュース番組 |
| | 5月 | | |
| | 6月 | | |
| 前期 期末 | 7月 | 17 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の内面を深める活動 生徒同士でのメンタリング 自分史づくり 自己表現力を鍛えるアクティビティ 新聞・ニュース番組を使った活動 ・フィールドワーク(総合的な探究の時間と連動) 地域や世界が抱えている課題の発見、解決に取り組む大人に学ぶ ・留学フェローシップによる留学キャラバン隊へ参加 ・エッセイライティング、スピーキング演習 エッセイの速読、ライティング 1分間モノローグ ・期末プレゼンテーション発表 前期期間で深められた自分自身について・興味のある分野ややりたいことについて英語で発表 |
| | 8月 | | |
| | 9月 | | |
| 後期 中間 | 10月 | 16 | <ul style="list-style-type: none"> ・海外進学の様式や、学べることについて調べる 大学の種類や、形態、日本の大学の学びとの違い、学費や生活費のこと、海外進学の特長デメリット、海外進学する 場合の具体的なスケジュール、試験の内容などについて調べる それぞれ異なる国、大学を担当して、調べた内容をプレゼンテーション発表する 海外大学模擬授業(留学フェローシップによるオンラインカレッジ / 動画) ・ディスカッション、エッセイライティング、スピーキング演習 エッセイの速読、ライティング ディベート 1分間モノローグ ・学びたい分野、学びたい場所を絞る メンタリング |
| | 11月 | | |
| | 12月 | | |
| 後期 期末 | 12月 | 19 | <ul style="list-style-type: none"> ・学びたい分野、学びたい場所を絞る メンタリング ・ディスカッション、エッセイライティング、スピーキング演習 エッセイの速読、ライティング ディベート 1分間モノローグ ・期末プレゼンテーション発表 1年間で深められた自分自身について・興味のある分野ややりたいことについて英語で発表 |
| | 1月 | | |

科目 **世界の中の日本**

授業時数 **3 単位**
履修学年 **2 学年**

目標 文化の歴史的背景の調査や考察を通じて、文化の相互作用や多様な価値観を理解する。日本と世界との関係を歴史的に考察することで日本文化を相対化し、多様な文化の受容を目指す。過去と現在との文化比較を通じ自らを客観的に見つめる力を身に付け、アイデンティティを確立する。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|--|---|---|
| 使える 活用Ⅱ | 出典の信頼性を判断して適切な情報を収集し、それらを精選したうえで、総合して分析することができる。また、調査・考察の結果を論理的に整理し、要点を押さえてわかりやすく発表することができる。 | 複数の事項を適切に関連付けて考えたり、一つの事項を多面的に考えたりできる。また、調査・考察をもとに筋道立てて自分の考えを作り、それを表現することができる。 | 様々な文化に関心をもって調べるとともに、自ら課題を見出し、それについて考察・表現しようとする姿勢がある。また、他者の意見をもとに自らの意見を止揚しようとしたり、他者の意見を尊重しながら協力して発表を作っていくことができる。 |
| できる 活用Ⅰ | 出典の信頼性を判断して適切な情報を収集し、それらを総合して分析することができる。また、調査・考察の結果を論理的に整理し、要点を押さえて発表することができる。 | 複数の事項を適切に関連付けて考えたり、一つの事項を多面的に考えたりできる。また、調査・考察をもとに自分の考えを作り、それを表現することができる。 | 様々な文化に関心をもって調べるとともに、自ら課題を見出し、それについて考察・表現しようとする姿勢がある。また、他者の意見を尊重しながら協力して発表を作っていくことができる。 |
| わかる 習得 | 出典の信頼性を判断して適切な情報を収集し、それらを分析することができる。また、調査・考察の結果を論理的に整理し、発表することができる。 | 複数の事項を関連付けて考えたり、一つの事項を多面的に考えたりできる。また、調査・考察をもとに自分の考えを作り、それを表現することができる。 | 様々な文化に関心をもって調べ、表現しようとする姿勢がある。また、他者の意見を尊重しようとする姿勢がある。 |
| 風越高校の目指す学習者像 | [知識のある人] | [思考できる人] [広い視野を持つことができる人] | [探究する人] [コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人] |
| 評価方法 | 発表、レポート | 発表、ディバートの準備メモ、レポート | 発表、ディバートの準備メモ、各単元の振り返りシート |

■何で学ぶか [教材]

文学、映画、SNSなど、日本や世界の文化が見えるようなもの
例) 映画「きつとうまくいく」(2009年、インド)
→生活文化や大学の様子、インド社会における「学歴の重要性」などがわかる

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- (各単元の流れに相当)
- ・世界と日本の文化について、その特徴や歴史的背景を調べる
 - ・世界と日本の文化について、その相違点・共通点を考える
 - ・調査・考察したことをパワーポイントでまとめ、それに基づいて発表する
 - ・ディベートに向けたメモを作成して自らの意見を整理する
 - ・文化に関する問いを設定し、それについてディベートする
 - ・ディベートを通して考えたことをまとめ、表現する

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

| | | 時数 | 学習内容 |
|------|-----|----|---|
| 前期中間 | 4月 | 30 | 1. 導入—世界の学校文化について調べよう ①「日本の学校っぽい」を集めよう:2人1組になってTikTok風の短い動画を作る ②「世界の学校文化クイズ」を作ろう:世界の学校で見られる様子、制服、ルールなどでクイズを作る ③世界の学校文化について調べてみよう:関心をもったことについて調べてまとめ、発表 |
| | 5月 | | 2. 風越高校や下伊那地域の学校文化を調べてみよう(1の調査と比較するため) ①発表のイメージをもつ:教員自身が調べたことを発表し、見通しを持たせる ②調べる:風越高校について疑問や興味のあることをテーマにする(例)制服、ルール、校歌…) |
| | 6月 | | ③まとめる:パワーポイントでまとめる。他校との比較を必ず入れる ④発表する:「生徒が生徒に授業をする」という形式をとる ⑤ディベート:文化に関する問いを決め、それに向けたメモを作成してからディベートに臨む ⑥レポート作成:議論をふまえて自分の意見を書く |
| 前期期末 | 7月 | 30 | 3. 日本の学校文化について調べよう ①発表のイメージをもつ:教員自身が調べたことを発表し、見通しを持たせる ②調べる:2で調べたことをテーマに、他地域について調べる ③まとめる:パワーポイントでまとめる。他地域との比較を必ず入れる ④発表する:「生徒が生徒に授業をする」という形式をとる ⑤ディベート:文化に関する問いを決め、それに向けたメモを作成してからディベートに臨む ⑥レポート作成:議論をふまえて自分の意見を書く |
| | 8月 | | |
| | 9月 | | |
| 後期中間 | 10月 | 25 | 4. 世界の学校文化について調べよう ①発表のイメージをもつ:教員自身が調べたことを発表し、見通しを持たせる ②調べる:3で調べたことをテーマに、世界について調べる ③まとめる:パワーポイントでまとめる。世界との比較を必ず入れる ④発表する:「生徒が生徒に授業をする」という形式をとる ⑤ディベート:文化に関する問いを決め、それに向けたメモを作成してからディベートに臨む ⑥レポート作成:議論をふまえて自分の意見を書く |
| | 11月 | | |
| | | | |
| 後期期末 | 12月 | 20 | 5. まとめ—学校文化から見える日本と世界 ①調べる:まとめとなる問いを立て、そのディベートに必要な調査・考察を行う ②まとめる:パワーポイントでまとめる ③発表する:自分の意見を発表する ⑤ディベート:他の人の発表をふまえて自分の意見を作り直し、ディベートメモを作成する。 その後、ディベートを行う ⑥レポート作成:議論をふまえて自分の意見を書く |
| | 1月 | | |
| | 2月 | | |